ー　必ずお読みください　ー

ロタウイルスワクチンの予防接種を受ける方へ

【 苫小牧市健康支援課　☎ 0144-32-6407 】

1 ロタウイルス感染症とは

ロタウイルスによって引き起こされる急性の胃腸炎で、乳幼児期（０～６歳頃）にかかりやすい病気です。ロタウイルスは感染力が強く、５歳までにほぼすべての子どもがロタウイルスに感染するといわれています。大人はロタウイルスの感染を何度も経験しているため、ほとんどの場合、症状が出ません。しかし、乳幼児は、激しい症状が出ることが多く、特に初めて感染したときに症状が強く出ます。主な症状は、水のような下痢、吐き気、嘔吐、発熱、腹痛です。脱水症状がひどくなると点滴が必要となったり、入院が必要になることがあります。５歳までの急性胃腸炎の入院患者のうち、40～50％前後はロタウイルスが原因です。

2 ロタウイルスワクチンについて

ロタウイルスワクチンは、**ロタリックス**と**ロタテック**があり、いずれもウイルスを弱毒化した生ワクチンで、接種方法は**経口接種（口から液体を飲み込む方法）**となります。いずれのワクチンも、ロタウイルスに対する予防効果が示唆されていますが、他のウイルスに起因する胃腸炎を予防することはできません。

3 副反応について

主な副反応としては、下痢、嘔吐、発熱、胃腸炎などで、まれに起きる重要な副反応として、アナフィラキシーがあります。また、接種後１～２週間は**腸重積症**のリスクが高まる可能性があります。
初回接種の週数が高くなるにつれ、腸重積症のリスクが高まることから、早めに（出生14週6日後までに）接種を開始し、完了することが重要です。なお、重篤な副反応の発生頻度は、ロタリックスは0.003％（※）、ロタテックは0.0021％（※）となっています。

※いずれも平成25年４月１日から令和５年９月30日までの数値

腸重積症とは

- 腸重積症は、腸の一部が隣接する腸管に入り込み、腸が閉塞した状態になる緊急性の高い病気です。
- ワクチン接種の有無に関わらず、生後３か月から増え始め、２歳くらいまでの赤ちゃんがかかりやすい病気です。
- ロタウイルスワクチン接種（特に初回接種）後、１～２週間程度の間は、腸重積症の発症リスクが高まるとの報告があります。
- 腸重積症を発症した場合、発症から時間が経過するほど外科手術になる可能性が高まるため、早めの治療が大切です。

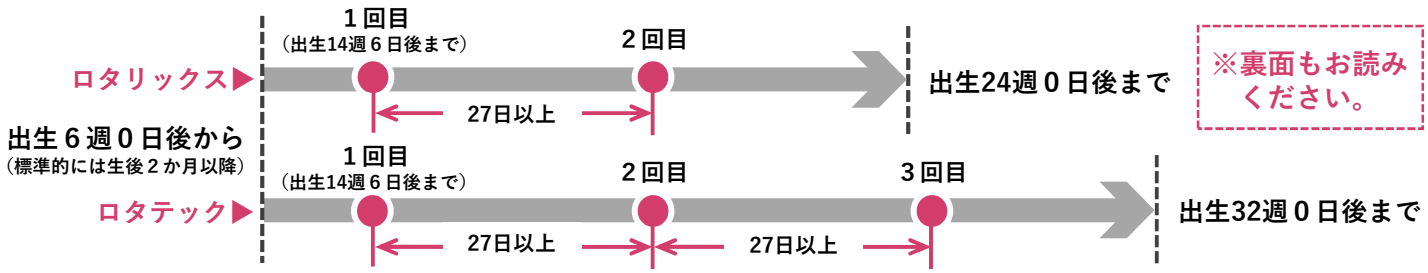
次のような症状が１つでもみられた場合は、腸重積症の疑いがありますので、速やかに医師の診察を受けてください。

- □ **泣いたり不機嫌になったりを繰り返す**
- □ **嘔吐を繰り返す**
- □ **ぐったりして顔色が悪くなる**
- □ **血が混ざったねっとりした便が出る**

4 接種方法・接種時期について

- **ワクチンの種類によって、接種回数や接種スケジュールが異なります**ので、下記の表でご確認ください。
- **接種完了まで、最初に受けたワクチンと同じ種類のワクチンを接種**します。
- いずれのワクチンも、**初回接種は出生14週６日後までに実施**してください。
- **ワクチンをうまく飲み込めなかったり吐き戻した場合でも、再度接種する必要はありません。**

ワクチンの種類	ロタリックス	ロタテック
接種方法・接種量	１回あたり1.5mLを経口接種	１回あたり2.0mLを経口接種
接種時期・回数	出生６週０日後～出生24週０日後までに 27日以上の間隔をあけて２回	出生６週０日後～出生32週０日後までに 27日以上の間隔をあけて３回



※裏面もお読みください。

予防接種を受ける前の注意事項

予防接種を受ける前のチェック項目

- □ お子さんの体調はよいですか。
- □ 今日受ける予防接種について、必要性や効果及び副反応など理解していますか。
  わからないことがあれば、質問をメモしておきましょう。
- □ 『母子健康手帳』は持っていますか。
- □ 予診票の記入は済みましたか。
- □ 保護者の方が同伴できない場合には、代理人の方に委任状を渡しましたか。

次のような方は予防接種を受けられません

【1】接種会場（医療機関）で測定した体温が37.5°C以上のお子さん
【2】重とくな急性疾患にかかっていることが明らかなお子さん
【3】その日に受ける予防接種によって、または、予防接種に含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことのあるお子さん（※「アナフィラキシー」とは、通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。）
【4】先天的な消化管症状のあるお子さん（その治療が完了した方を除く。）、過去に腸重積症を起こしたことのあるお子さん、重症複合免疫不全（SCID）のあるお子さん
【5】その他、医師が不適当な状態と判断したお子さん

次のような方は予防接種を受ける前にお医者さんとよく相談してください

【1】心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障がいなどで治療を受けているお子さん
【2】予防接種で、接種後２日以内に発熱の見られたお子さん及び発疹、じんましんなどのアレルギーと思われる異常が見られたお子さん
【3】過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがあるお子さん
- ➢ けいれん（ひきつけ）の起こった年齢、そのとき熱があったか、その後起こったか、受けるワクチンの種類などで条件が異なります。必ず、かかりつけ医と事前によく相談しましょう。

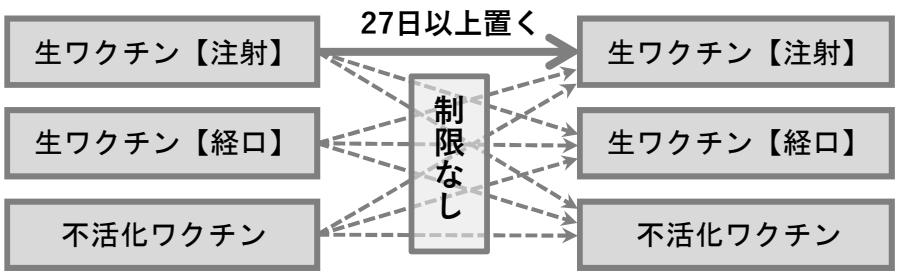
【4】過去に免疫不全の診断がなされているお子さんや近親者に先天性免疫不全症の者がいるお子さん（例えば、赤ちゃんの頃、肛門の周りにおできを繰り返すようなことがあった方の場合）
【5】胃腸障害（活動性胃腸障害・慢性下痢）があるお子さん

予防接種を受けた後の注意事項

【1】接種を受けたあと30分間程度は、接種した医療機関でお子さんの様子を観察するか、先生とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
【2】接種後、生ワクチンでは４週間、不活化ワクチンでは１週間は副反応の出現に注意しましょう。
【3】接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
【4】接種当日は、激しい運動は避けましょう。
【5】接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。
【6】異なるワクチンの予防接種を受けるまでに必要な間隔は次のとおりです。
※令和2年10月1日から接種間隔が改定され、生ワクチン（注射）のあとに生ワクチン（注射）を接種する場合以外は、制限がなくなります。

異なるワクチンの接種間隔パターン

※以下のパターンは、あくまでも異なるワクチンを接種する場合の接種間隔です。
同一ワクチンの接種間隔は、各ワクチンごとに定められた接種間隔に従ってください。



※生ワクチン【注射】
麻しん・風しん（MR）、BCG、水痘、おたふくかぜ（任意接種）

※生ワクチン【経口】
ロタウイルス

※不活化ワクチン
ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合（DPT-IPV）、二種混合（DT）、五種混合、子宮頸がん予防（HPV）、B型肝炎、日本脳炎

【 予防接種救済制度について 】

万が一、定期予防接種が原因で健康被害が発生した場合は、予防接種法に基づく救済制度があります。この救済制度の請求について、厚生労働省が予防接種との因果関係を認定した場合、国の定める医療費、医療手当等の給付を受けることができます。